古紙回収による学校への図書寄贈活動とミニコミ紙発行

毎日民報西部販売センター　所長　長沢吉勝

古紙回収による収益金と販売所が出費した資金で図書購入区域内の小学校へ寄贈

◉実施期間

2000年～

◉実施地域

福島県郡山市内の販売区域内

◉活動概要

福島県郡山市の毎日民報西部販売センター所長の長沢吉勝さんは、読者から回収した古新聞によって得た利益に、販売所の資金を加えて図書を購入し、区域内の小学校を中心に年２回程度３万円相当の図書を寄贈している。

環境保護・リサイクル活動につながる古紙回収を通じて新聞販売所としての社会的使命を果たすとともに、リサイクルの重要性を生徒が学ぶことができ、多くの理解、感謝の言葉が寄せられている。

また、2005年から区域内の掲載記事をまとめたミニコミ紙「月刊西部」を毎月発行し、その紙面上で贈呈報告を行うことで、読者と販売所をつなぐ有効な媒体として、長年親しまれている。

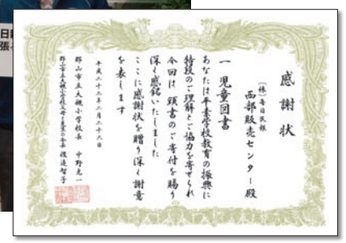
＊

長沢吉勝（ながさわ・よしかつ）

◎古紙回収による学校への図書寄贈活動

古紙回収作業を行う販売店スタッフ

長沢所長（右から３番目）と販売店スタッフ



感謝状

一　児童図書

あなたは本業学校教育の振興に特段のご貢献と協力を尽くされ今回は　頒書の　寄付を賜り深く感謝いたしました

ここに感謝状を贈り深く謝意を表します

郡山市立大槻小学校　校長　中野光一

郡山市立小山田小学校　校長　渡辺智子

毎日民報西部販売センター　殿

学校からの感謝状

■寄贈された長澤文庫と報道記事

郡山市立小山田小学校の長澤文庫

◆郡山市の毎日・民報西部販売センター　十九日、子ども向けの本約三十冊を大成小に寄付した。贈呈式は同校で行われ、長沢吉勝社長＝写真・左から２人目＝が佐藤小室安美さん（書委員長の新一校長と図書委員）に渡した。渡辺知春営業部長が一緒に訪れ、図書委員の新沢千尋さん、酒井千晴さん、佐藤友希君が立ち会った。同センターは受け持ち地域の学校に随時寄付している。本は古紙回収して得たお金で購入した。

福島民報　2008年12月21日付

今野さんに本を手渡す吉成取締役（中央左）

児童図書を贈る

大槻小に毎日・民報西部販売センター

郡山市の毎日・民報西部販売センター（長沢吉勝社長）は五日、大槻小に児童図書を贈った。

動物や鳥、昆虫の図鑑やジュニアスポーツを紹介する本。贈呈式は同校で行われ、吉成孝次取締役が図書委員会委員長の今野あすかさんに贈った。中野光一校長が立ち会い、副委員長の坪井流音、書記の桑名桃花さん、西條智浩君が同席した。

同センターは地域の高齢者宅の古新聞を回収して販売し、地域の小学校などへ本をプレゼントする活動を続けている。

福島民報　2010年３月７日付

長沢社長（左）から図書を受け取った子どもたち

朝日が丘小に図書

郡山の西部販売センター　寄贈

郡山市の西部販売センターは十日、市内の朝日が丘小に図書十四冊を贈った。

長沢公子社長と渡辺知春営業部長が学校を訪れ、図書委員会の上石渓委員長（六年）、佐久間日南副委員長（同）、大島愛梨書記（五年）に手渡した。

本郷育男校長と図書館担当の菅野啓子司書教諭、遠藤広美司書補が同席した。

センターは古新聞を回収して販売した収益金で、販売区域内の小学校に年二回、希望する本を寄贈している。今回は子ども図鑑の最新版と「野菜で食育！おいしいスイーツ」を選んだ。

長沢公子社長と渡辺知春営業部長が学校を訪れ、図書委員会の上石渓委員長（六年）、佐久間日南副委員長（同）、大島愛梨書記（五年）に手渡した。

本郷育男校長と図書館担当の菅野啓子司書教諭、遠藤広美司書補が同席した。

福島民報　2011年11月15日付

長沢取締役から本を受け取る守さん（右から３人目）ら

大成小に児童図書20冊

毎日・民報西部販売センター寄贈

郡山市の毎日・民報西部販売センター（長沢吉勝社長）は七日、大成小に児童図書二十冊を贈った。

センターは古新聞を回収して販売した収益金で地元の小学校などに毎年二回、本を贈っている。今回は「ジュニアのための万葉集」や「知っておきたい四字熟語」など学校の要望に沿った本を選んだ。

長沢公子取締役と渡辺知春営業部長が学校を訪れ、六年生で図書委員会の守佳奈恵委員長、福島希衣副委員長、荒井弘道書記に手渡した。菅野則夫校長が立ち会った。

長沢取締役が「たくさん本を読んでください」とあいさつ、守さんらが「ありがとうございました」とお礼を述べた。菅野校長は「大切に使わせていただきます」と感謝した。

福島民報　2010年10月10日付

図鑑15冊 大槻小に寄贈

毎日民報西部販売センター　古紙回収で資金

郡山市堤の毎日民報西部販売センターは二十七日、古紙回収の益金で購入した植物や昆虫など五種類の図鑑合わせて十五冊を大槻小に寄贈した。

子どもたちの教育環境の整備に役立ててもらおうと、十年ほど前から図書の寄贈を続けている。現在は年二回行っており、管内の大槻、朝日が丘、大成、小山田の四小学校を順番に回っている。

贈呈式は大槻小で行われ、長沢公子社長が図書委員会の樽井葵衣委員長、保高竜斗副委員長（いずれも六年）に手渡した。

渡辺知春営業部長、大平博康校長、高橋裕昭教頭、図書担当の小沢千尋教諭が同席した。

長沢社長（右から３人目）から図鑑を受ける樽井さん（同４人目）

福島民報　2012年６月29日付

◎ミニコミ紙発行

「月刊西部」編集会議

月刊西部　販売センター　2013.5

「月刊西部販売センター」は5月1日から5月31日までの紙面掲載された毎日・民報西部販売センター区域内の記事をまとめたものです

「人権の花」美しく咲け

法務局　郡山支局など　12小学校に種、苗贈る

擁護委員の日　前に

郡山市水道週間ホスター展

特選に国分さん（大槻）

準特選　渡辺さん（大槻）

月刊西部　2013年5月号

障害者支援　古紙再生鉢事業

東奥会（東奥日報販売店主会）青森方部会

障害者施設利用者のリハビリを目的とした古紙再生鉢などの製作を実施 地域交流に寄与

◉実施期間

2003年7月～

◉実施地域

青森県内全域、青森市を中心に

◉活動概要

東奥会青森方部会では、2003年７月から新聞古紙を再利用した鉢の製作を知的障害者更生施設に委託し、施設利用者のリハビリとエコ活動を目的とした「古紙再生鉢活動」を実施している。

機材（約180万円）は販売店側で購入し、施設に貸与している。販売店側から必要な個数だけ発注するため、施設側は販売経路が確保され、収益事業にもなっている。翌年からは古紙のくずを使った靴の湿気取りなども製作している。

また、地区の子どもたちが施設を訪問し、再生鉢作りの体験学習を行うなど交流を深めており、地域、新聞販売店、施設が一つの輪でつながる活動となっている。

＊

東奥会青森方部会＝青森地区にある東奥日報系統の13店で組織。佐々木公男（ささき・きみお）会長

読者とともに　東奥会創設80年　(中)

ゴンゴン、ゴンゴン…。で見たのがきっかけだ。古新聞を金網にこすりつける音が作業場に響く。青森市の知的障害者更生施設「徳誠園」（柿崎祐蔵園長）のグループホームに入居者らは週五日、古新聞をリサイクルする園芸用の古紙再生鉢の製作に汗を流している。

地域密着を掲げる東奥会は、社会貢献に力を注ぐ。この事業の仕掛け人は、東奥会の地域ブロック組織の「青森、上磯方部会」。同方部会員の佐々木公男さん(四七)が、再生鉢は埋めると土にかえる。

園生の自活後押し

「新聞のリサイクルに加え、地域貢献に結び付けられないか」。佐々木さんは、地元の徳誠園に製作を依頼、平成十五年から製作が始まった。

製作機械は同方部会が購入・貸与。出来上がった再生鉢は方部会で買い上げ、園生の自活を後押しする。再生鉢は東奥会が新聞のPRに活用。再生鉢は埋めると土にかえる。

地域を見つめ　施設と連携、古紙再生鉢

古紙再生鉢（写真手前）の製作風景。細かく裁断し、湿らせた古新聞を金網でこし、成型機で鉢にする

工藤祐輝さん(三七)、木立良子さん(三七)は「作業を楽しみにしています」と口をそろえる。

地域貢献は新聞販売業界全体での流れだが、東奥会も新たな事業として県内全配達員からなる「安全安心パトロール隊」を結成。平成十八年十月、東奥日報社、県警と三者で調印式を行った。

地域をくまなく歩く配達員が事件、事故に目を配り、何かあれば警察などへ迅速に連絡する。

全配達員が黄色の防犯ベストを着用、車にもステッカーを張り活動を展開している。

幅広い草の根活動

今年六月二十二日に同園の支援スタッフ・工藤祐輝さん(三七)、木立良子さん(三七)が朝刊配送中、深夜はいかいし自宅に送り届けた。

鉢谷さんは「今後も配送で走り回るメリットを生かし、地域の安全活動に役立つことができれば」と意気込む。

一方、東奥会員の中には、草の根活動で地域貢献している販売店もある。

稲垣販売店（葛西康成店主）は、毎春家族総出で地域のごみ拾いを行っている。ほかにも街路樹の下草刈り、冬にはお年寄り宅の雪片付けまで奉仕活動は幅広い。

葛西店主の妻久子さん(五六)は「全部好きでやっているだけ。地域がきれいになると気持ちいい。私の自転車にはいつでもかまとごみ袋と手袋が入っているの」と笑顔を見せた。

東奥日報　2007年9月8日付朝刊

古紙再生鉢

■古紙再生鉢や湿気取りの配布

■体験学習の様子と参加者の感想

地元中学生による靴の湿気取り作りの体験学習

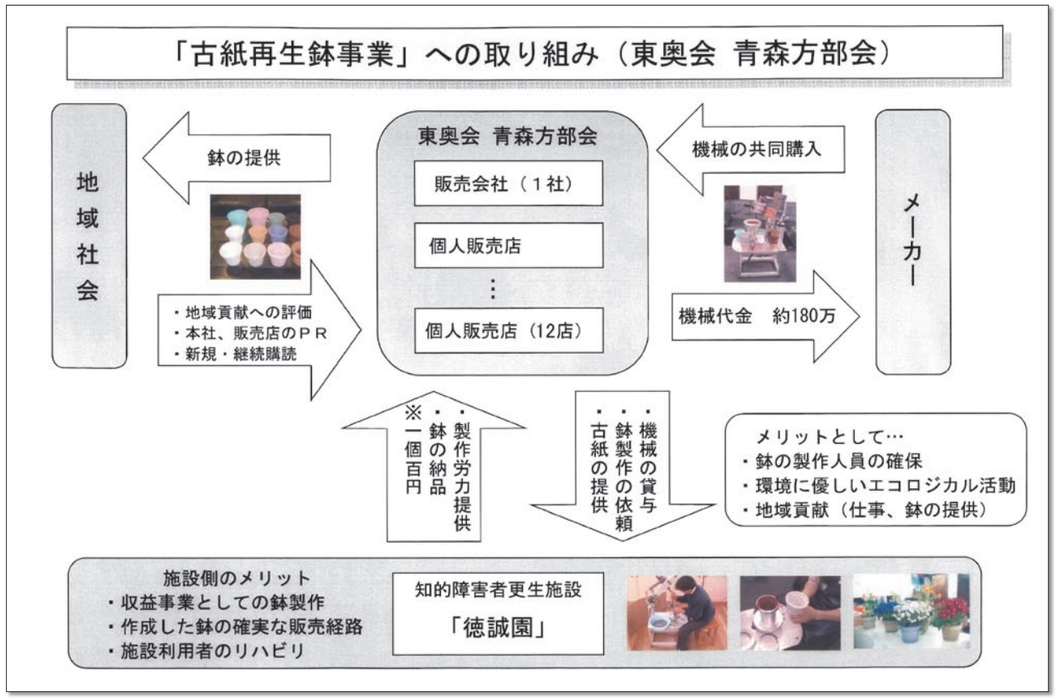
【体験学習日　平成25年9月3日（火）】

青森市立北中学校２年　大石　凛（写真・左）

非常に良い体験をさせていただきました。環境問題で騒がれているこの時代ですので、自然にリサイクルされることに感動しました。思ったほど難しくもなく、集中するほど上手く出来ることが楽しく思えました。

青森市立北中学校２年　大科　洸輔

新聞紙を再利用して鉢を作っていることは、自然を大切にしているなと思いました。知的障害者更生施設の徳誠園のみなさんと作業できて楽しかったです。



ベルマーク運動による地域貢献活動

ASA相模原みなみ 所長　岩崎公則

ベルマーク回収を通して 読者と学校のパイプ役担う活動

◉実施期間

2005年4月～

◉実施地域

神奈川県 ASA 相模原みなみ、相模原中央、座間店のエリア内

◉活動概要

神奈川県相模原市の ASA 相模原みなみ所長の岩崎公則さんは、読者からベルマークを預かり、近隣の学校に届けるベルマーク運動を展開している。

運動の理解・協力のため、ASA スタッフによる口コミでの呼びかけ、折り込みチラシ、ミニコミ紙、店頭掲示物等での PR 活動を行うとともに、届けた結果もミニコミ紙等に掲載している。その結果、「ベルマークがたまったら ASA へ」という流れが浸透し、毎年約 10 万点のベルマークを回収し、エリア内の 13 の幼稚園、小中学校に届けている。

＊

岩崎公則（いわさき・きみのり）

東林小学校へ寄贈

くぬぎ台小などにベルマーク寄贈

くぬぎ台小PTAの吉岡さん（左）と小島さん

朝日新聞、ASA、あさのポケットはベルマーク運動を応援しています。読者の皆さんからお預かりしたベルマークを、地元の学校に贈呈しているほか、本紙やチラシなどで活動をPRしています。

7月15日、本紙編集長がくぬぎ台小を訪問し、同校PTAのベルマーク担当・吉岡さんと副会長の小島さんにベルマークを手渡しました。今回は読者の皆さんがお預かりしたベルマーク21名分です。

くぬぎ台小では、年間4～5万点のベルマークが集まるそうで、集計作業は年3回、PTA役員と保護者30人体制で取り組んでいます。ベルマーク預金での直近の買い物は、体育の授業で使うティーボールセットとのことです。

また、7月11日には上鶴間小に17名分、7月12日には相模が丘小（座間市）に18名分のベルマークを届けました。両校ともPTAの方がいなかったので、学校の先生に手渡しました。

ベルマークは1点1円に換算され学校の教材や備品となり、地域の子どもたちのために役立っています。切り抜いて集める地域貢献活動です。皆さんも始めましょう！ベルマークを集めたら、ASA相模原みなみ☎042（743）0398までご一報ください。引き続きご協力お願いします。

ベルマークを集めよう！

キヤノン、エプソン、ブラザーのプリンター使用済みインクカートリッジは1つ5点分です。

くぬぎ台小学校への寄贈（あさのポケット2011年8月14日号）

年間5万点、教材や備品を購入

東林小PTAのベルマーク運動

細かい集計作業に取り組む5年生の保護者

東林小学校PTAによるベルマークの集計作業が6月23日、同校3階の会議室で行われた。東林小PTAでは、6月と11月の年2回、学年別にベルマークの集計作業を実施しており、この日は5学年の保護者15人程が参加した。各クラス2人ずつベルマーク係が決まっているが、集計作業は人手がかかるため、毎回数名の保護者が自発的に手伝いにきてくれるそうだ。

集計作業は、予想以上に細かい作業で、小さなベルマークを会社別、点数毎に分けたり、数えたりを繰り返す。ベルマークの量にもよるが、10数人で2～3時間はかかるという。苦労して集計するだけあって、ベルマーク運動に対する保護者の意識は高い。「集計作業に参加してから、ベルマークが付いていないか確認するようになった」。また「同じような商品なら、ベルマークのついているものを選んでいる」とのことだ。

同校PTAは、昭和42年からベルマーク運動に参加。今までにベルマークで購入した教材や備品は数多く、グランドピアノ（168万点）、ピクニックテーブル＆アンブレラ（約30万点）、一輪車9台＆スーパーホッピング（約21万点）などがあり、最近では園芸用のポータブル耕運機を購入している。1年間で集まるベルマークは、平均約5万点で、昨年累計500万点を突破した。購入する商品については、学校側と相談して決めているが、「今年は○○を購入しますなど、目標を設定すると、みなさんの意識も高まるようです」とPTA本部役員は話した。

ベルマークは1点1円。「塵も積もれば山となる」の言葉どおり、地道なPTAの活動が、東林小の大きな力のひとつになっている。

＊　＊　＊

ASA相模原南口・相南では、ベルマーク運動を積極的に応援しています。「ベルマークを集めているが、届け先がわからない」「子どもが卒業してしまったので、学校に届けに行けない」という方は、ASAスタッフにお申しつけください。お預かりしたベルマークを、あなたに代わって学校・幼稚園にお渡しします。なお昨年から、キヤノンとエプソンの使用済みプリンター用インクカートリッジが、1個ベルマーク5点分に換算されることになりましたので、こちらのほうもご寄贈くださるようお願いします。問い合わせは、ASA相模原南口☎042（743）0398まで。

あさのポケット2006年7月9日号

いつもご協力ありがとうございます！ ベルマークを3校に寄贈

（左から）東林小の桑沢さん、有本会長、永嶋さん、当社岩崎社長

相模野小PTAの橋谷さんとベルマーク係の皆さん

朝日新聞、ASA、本紙あさのポケットはベルマーク運動を応援しています。日頃から読者の皆さんには、ベルマーク運動にご理解・ご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。6～7月にかけて、3校にベルマークを寄贈しましたのでご報告いたします。

6月13日、東林小PTAの有本会長、桑沢副会長、ベルマーク担当の永嶋さんが来社しました。東林小にはベルマーク33名分、使用済みインクカートリッジ6名分をお渡しました。後日、永嶋さんが再び来社され、1学期の集計で目標だった「拡大機ポスタープリンター」の購入点数に達したとのこと。2学期中には、学校に届くので、また報告してくれるそうです。

7月1日、鶴の台小PTAにベルマーク13名分を寄贈しました。この日は、あさポケスタッフが他の用事のついでに学校におじゃましたので、ベルマーク担当者にお会いできませんでしたが、広報委員会の皆さんにベルマークを託しました。次の機会にお会いしたいです。

7月9日、相模野小PTAのベルマーク係の橋谷さんほか3名が来社しました。相模野小にはベルマーク20名分、使用済みインクカートリッジ5名分をお渡ししました。前回ベルマークでの買い物は「投影機」でした。次の目標はまだ決まってませんが、学校と児童に役に立つものを、みんなで相談して決めるそうです。

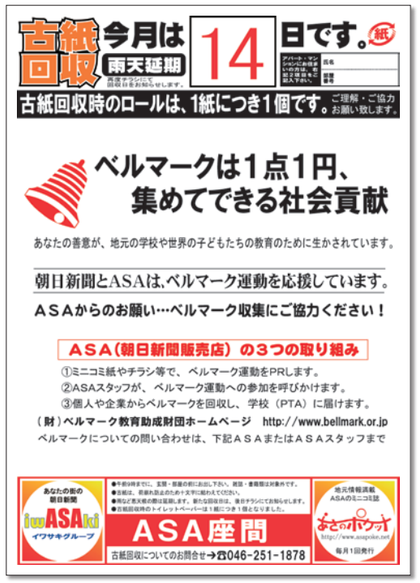
ベルマークは1点1円、集めるだけでできる地域貢献運動です。皆さんの集めたベルマークが、地元の学校で、また被災地や世界の子どもたちのために役立っています。これからもご協力お願いします。ベルマークはASAスタッフにお渡しください。お店でも随時受け付けております。お問い合せは、ASA相模原みなみ☎042（743）0398まで。

あさのポケット2013年7月14日号

■ベルマークの寄贈点数について

【みなみエリア】		
東林小	毎年３回寄贈	１回当たり約２万点～２万５千点（年間６万～８万点）
くぬぎ台小	毎年１回寄贈	約2万点
相模野小	毎年１回寄贈	約2万点
相模が丘小	1～2年に1回寄贈	約1万5千点
鶴の台小	1～2年に1回寄贈	約1万5千点
上鶴間小	1～2年に1回寄贈	約1万5千点
【座間エリア】		
座間小	毎年１回寄贈	約2万点
入谷小	1～2年に1回寄贈	約2万点
座間中	1～2年に1回寄贈	約2万点
【中央エリア】		
横山小	毎年１回寄贈	約1万点
星が丘小	1～2年に1回寄贈	約1万点
陽光台小	1～2年に1回寄贈	約1万点
星が丘幼稚園	1～2年に1回寄贈	約1万点

グループトータルで年間 13 万点以上は贈呈している。



古紙回収 今月は 雨天延期 14 日です。紙

古紙回収時のロールは、1紙につき1個です。ご理解・ご協力お願い致します。

ベルマークは1点1円、集めてできる社会貢献

あなたの善意が、地元の学校や世界の子どもたちの教育のために生かされています。

朝日新聞とASAは、ベルマーク運動を応援しています。

ASAからのお願い…ベルマーク収集にご協力ください！

ASA（朝日新聞販売店）の3つの取り組み

①ミニコミ紙やチラシ等で、ベルマーク運動をPRします。

②ASAスタッフが、ベルマーク運動への参加を呼びかけます。

③個人や企業からベルマークを回収し、学校（PTA）に届けます。

（財）ベルマーク教育助成財団ホームページ　http://www.bellmark.or.jp

ベルマークについての問い合わせは、下記ＡＳＡまたはＡＳＡスタッフまで

あなたの街の朝日新聞 iwASAki イワサキグループ

●年齢制限不可。広報・取扱の都合により、下内い、規定・書類類は対象外です。●金額は、税抜表示あるため文字に間違えてください。●海などで表天候の際は延期します。新たな回収日は、後日チラシにてお知らせします。●回収回数時のロイレットペーパーは1個につき1個となります。

ASA座間

古紙回収についてのお問合せ→☎046-251-1878

地元情報満載 ASAのミニコミ誌 あさのポケット http://www.asapoke.net 毎月1回発行

折り込みチラシ

下野市交通指導員として22年間 小学生の交通事故ゼロに貢献

読売センター南河内（みなみかわち） 所長　松本賢一

子どもたちの安全・安心を願い 交通事故から守る 地域見守り活動

◉実施期間

1991年1月～

◉実施地域

栃木県下野市祇園小学校南側横断歩道

◉活動概要

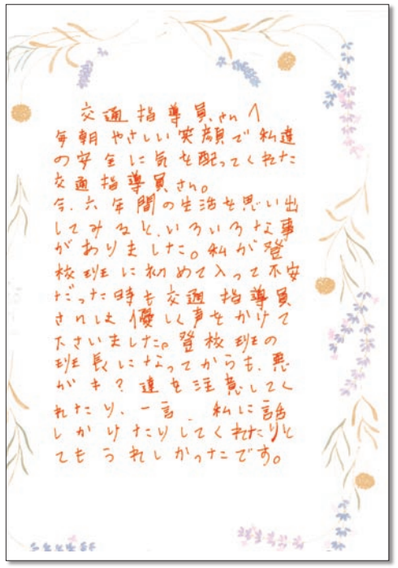
栃木県下野市の読売センター南河内所長の松本賢一さんは、地元の小学校が開校後２年経過しても交通指導員になる人がいない状況が続いたため、当時学童野球の監督をしていたことから、交通指導員を引き受けた。

以降22年間、休まずに指導員を継続し、交通事故ゼロに貢献している。交通ルールを守る子どもたちを育てるため、また子どもたちが安全に安心して登校できるよう、笑顔で見送っている。

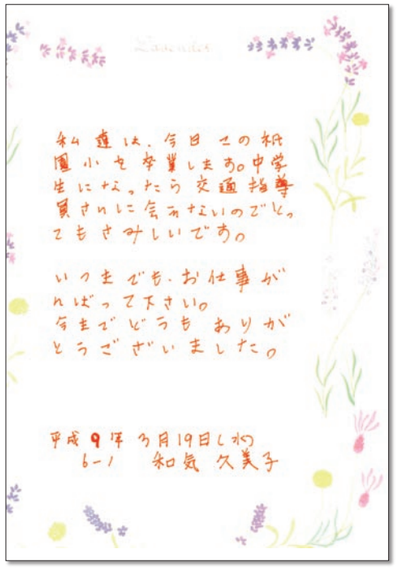
＊

松本賢一（まつもと・けんいち）

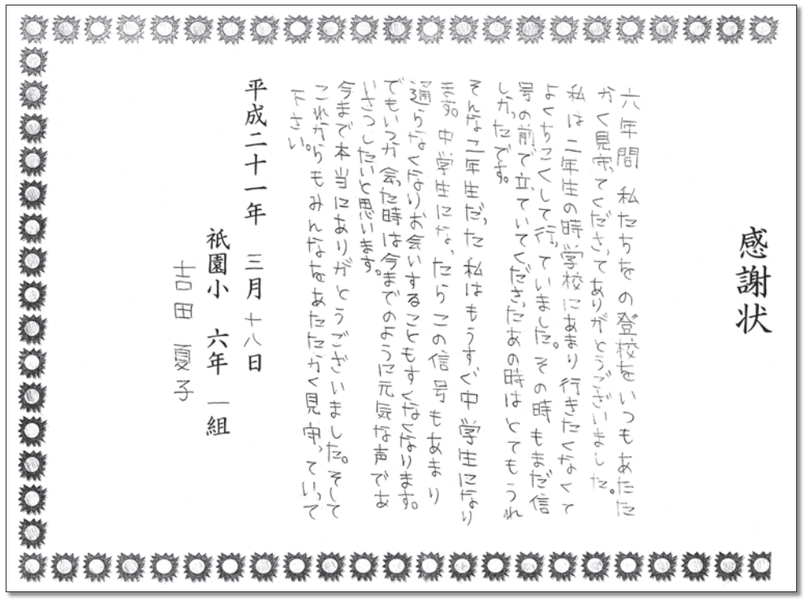
■子どもからの感謝の手紙



交通指導員さん
毎朝やさしい笑顔で私達の安全に気を配ってくれた交通指導員さん。
今、六年間の生活を思い出してみると、いろいろな事がありました。私が登校班に初めて入って不安だった時も交通指導員さんは優しく声をかけて下さいました。登校班の班長になってからも、悪がき？達を注意してくれたり、一言、私に話しかけたりしてくれたりしてもうれしかったです。



私達は、今日この祇園小を卒業します。中学生になったら交通指導員さんに会わないのでとってもさみしいです。
いつまでもお仕事がんばって下さい。
今までどうもありがとうございました。
平成9年3月19日し水
6-1　知気 久美子



感謝状

六年間私たちの登校をいつもあたたかく見守ってくださってありがとうございました。
私は二年生の時学校にあまり行きたくなくてよくちこくして行っていました。その時もまだ信号の前で立っていてくださったあの時はとてもうれしかったです。
そんな二年生だった私はもうすぐ中学生になります。中学生になったらこの信号もあまり通らなくなりお会いすることもすくなくなります。でもいつか会った時は今までのように元気な声でおいさつしたいと思います。
今まで本当にありがとうございました。そしてこれからもみんなをあたたかく見守っていて下さい。

平成二十一年　三月十八日
祇園小　六年　一組
吉田　夏子

■交通事故が起きないよう、毎日400人の子どもたちを見守る松本所長

長野市内小学校・特別支援学校新1年生に普通傷害保険を贈呈

信濃毎日新聞長野市店主会

市内小学校入学を祝い 新1年生に普通傷害保険を贈呈

◉実施期間

1980年から

◉実施地域

長野県長野市内の小学校55校、特別支援学校5校

◉活動概要

信濃毎日新聞長野市店主会では1980年から毎年、長野市内の小学校および特別支援学校の新1年生に普通傷害保険を贈呈している。2013年は長野市内の小学校55校、特別支援学校5校の新1年生3,432人の保険料約83万円を負担している。

長野市内の小学校新1年生の入学を祝い、健やかな成長と事故のないことを強く願って始めた活動で、児童の安心安全を願う毎年恒例の継続事業として定着している。長野県教育委員会から、教育振興に寄与したとして感謝状が贈られるなど、県・市教委をはじめ、多くの学校の先生・保護者から感謝されている。

＊

信濃毎日新聞長野市店主会＝長野市内の信濃毎日新聞系統の14販売所の店主で組織。宇都宮武（うつのみや・たけし）会長

■信毎長野市店主会保険贈呈事業の概要

平成25年6月11日

長野市内小学校・特別支援学校
新一年生に普通傷害保険を贈呈

信毎長野市店主会による長野市内小学校・特別支援学校新一年生への「普通傷害保険」の贈呈は1980年（昭和55年）より毎年贈呈し、本年で34年目になります。平成25年4月11日に長野県教育委員会へ、4月15日に長野市教育委員会へ目録を贈呈しました。

記

□対象者
長野市内の新一年生（60校＝小学校55校・特別支援学校5校）
3432人（前年比－94人）

□趣旨
入学を祝い、健やかな成長と、事故などの防止を願う。

□保険対象
24時間担保の事故による死亡、後遺障害（学校管理内外）

□保険金額
死亡　50万円
後遺障害　1，500円～50万円
保険料　830,544円（3,432人分）＝長野市内14の信毎販売店で負担

□信毎長野市店主会【会長：宇都宮武（篠ノ井 宇都宮新聞店店主）】
長野市を販売区域に持つ販売店14店で構成

①	信毎販売センター
②	安茂里・小池新聞店
③	松代・山崎新聞店
④	SAN青木島
⑤	篠ノ井・中島新聞店
⑥	篠ノ井・宇都宮新聞店
⑦	更北・牧新聞店
⑧	豊野・和田新聞店
⑨	三才・和田新聞店
⑩	牟礼・小林新聞店
⑪	戸隠・和田新聞店
⑫	柵・野池新聞店
⑬	七二会・八代新聞店
⑭	大岡・丸山新聞店

□年度別　保険料、人数一覧

年度	保険料　円	人数
8年	915,486円	3,783人
9年	874,346	3,613
10年	883,542	3,651
11年	874,104	3,612
12年	847,484	3,502
13年	914,034	3,777
14年	854,986	3,533
15年	895,884	3,702
16年	895,884	3,647
17年	916,696	3,788
18年	911,372	3,766
19年	899,756	3,718
20年	890,076	3,678
21年	898,546	3,713
22年	879,428	3,634
23年	847,726	3,503
24年	807,796	3,338
25年	830,544	3,432

□年度別保険対象事例
H8　交通事故による死亡
H14　交通事故による死亡

長野県教育委員会からの感謝状

■掲載記事

信毎市店主会が傷害保険料寄付

小学1年生対象に

信濃毎日新聞の長野市内の販売店13店でつくる信毎長野市店主会は15日、本年度の市内の小学1年生3432人が普通傷害保険に加入するための保険料83万円余りを、市教育委員会と信大付属長野小学校に贈った。

寄贈は34年目で、保険金は死亡時または後遺障害を負った場合に支払われる。市役所で行った寄贈式で、同店主会の宇都宮武会長は「保険は使ってもらわないことが一番。お守りの代わりとして寄贈します」とあいさつ。堀内征治教育長は「継続的な支援に感謝したい」と述べた。

また、信毎会連合会（鈴木哲会長、163店）は11日、県内の特別支援学校の児童・生徒2541人分の普通傷害保険料約145万円を県教育委員会と信大付属特別支援学校に寄贈した。

市教委が把握した2012（平成24）年度の市立小中学校の児童・生徒の事故件数は、前年度より30件少ない175件だった。死亡事故は起きていない。

目録を読み上げる宇都宮武会長

長野市民新聞　2013年4月18日付

特別支援学校へ傷害保険料贈る

信濃毎日新聞の販売店163店でつくる信毎会連合会の鈴木哲会長は11日、県教委を訪れ、県内特別支援学校全20校の幼稚部から高等部までの子ども計2541人を対象にした傷害保険料約145万円を贈った＝写真。

1981（昭和56）年から続けており、「支援の幅を広げよう」と今回から高等部も含めた。保険は学校の管理外で起きた事故によるけがなどが対象。目録を受け取った伊藤学司県教育長は「事故がないのが一番だが、保険をお守りに、子どもたちが安心して活動に取り組んでいける」と話した。

長野市内の13店でつくる信毎長野市店主会の宇都宮武会長も同日、県教委に同市内の特別支援学校全5校の小学部1年生全員分の傷害保険料を贈った。こちらの保険は学校の管理内外の事故によるけがが対象。15日には同市教委に同市内全小学校の1年生分の保険料を贈る予定で、合わせて3432人分計約83万円となる。

信濃毎日新聞　2013年4月12日付

★★★★★★★
「事故がないように」

信濃毎日新聞の販売店でつくる信毎会連合会（山下久雄会長）は七日、県下の盲・ろう・養護学校の児童生徒約千百人に対する傷害保険を県教委に贈った＝写真。信毎長野市店主会も、同市内の小学校新入学児童約四千四百人を対象に、同様の保険を贈った。

両会の関係者約十人が県教委を訪れ、目録を手渡した。樋口教育長は「温かい気持ちに感謝し、子どもたちに事故がないよう、一層心を引き締めます」とお礼。関係者はその後、信大付属小や長野市教委などを回った。子供たちに保険を贈るのは、信毎会連合会が九年目、長野市店主会はちょうど十年目。

信濃毎日新聞　1989年4月8日付

新入児童3650人に傷害保険

無事故願って

窪田市教育次長（左）に目録を手渡す、綿貫信毎販売センター副社長

信毎長野市店主会が寄贈

信濃毎日新聞の市内販売店でつくる信毎長野市店主会（10店）は23日、市内の小学校、養護学校の新入生約3650人に普通傷害保険を市教委を通じて贈った。

同店主会は、新聞を販売している地域へのお礼として、新入生の健やかな成長と無事故を願って、毎年寄贈し、今年で19回目。同店主会の信毎販売センター、綿貫浩弘副社長から目録を受け取った市教委の窪田教育次長は「五輪、パラリンピックの開催で、交通網の変化が激しい。今日はお守りを頂いたので、こちらも子どもたちが事故を起こさないよう努めたい」と述べた。

同店主会が贈った保険（保険料88万3542円）は、万が一の死亡時、後遺症の障害を受けた時に適用され、死亡時には最高50万円、後遺障害時には1500円－50万円が支払われる。一昨年4月の交通死亡事故以来、適用されていない。

また同日、信毎会連合会は県教委を通じて、全県の特殊教育学校（児童、生徒に普通傷害保険、全県の小中学校に「集金袋」を贈った。

長野市民新聞
1998年4月25日付